

表1 脆弱性の側面からのシステム診断とシステム監査視点の事例

(1) 主としてシステム診断からのアプローチになる脆弱性側面とその視点の事例

脆弱性の側面	効用事例	脆弱性の視点の事例	
		有用性 (主としてシステム診断の対象)	安全性・信頼性・適法性 (主としてシステム監査の対象)
経営管理・組織的側面	<p>情報通信システムが効率的・信頼性の高い業務処理の適用，マーケティング活用，経営戦略の実現など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>経営戦略実現の手段（ITによる戦略実現）</li> <li>情報システム化による業務の信頼性の向上</li> <li>最新の情報による迅速な意思決定の実現</li> <li>ITによる戦略情報システムの実現</li> <li>BPRによる組織のフラット化と迅速な意思決定</li> <li>アウトソーシングと情報化の生産性向上</li> <li>インターネットによるEC（電子商取引）社会の実現</li> <li>ITにより企業間連携とSCMの実現など</li> </ul>	<p>情報通信システムが効率的・信頼性の高い業務処理や企業内外で経営管理，戦略の実現に活用されているか</p> <p>[事例]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>戦略の実現のための適正な情報化投資</li> <li>情報システムによる業務の効率化に貢献</li> <li>ITによるBPRやCALS, EDIやSCMなど企業内外での戦略活用</li> <li>情報リテラシーの推進と情報活用能力の向上など</li> </ul>	<p>情報通信システムにより経営、業務処理システムの安全性，信頼性に問題が発生していないか</p> <p>[事例]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ソフトウェアの開発が人的に時間、労力、能力、知力に依存を考慮した計画管理</li> <li>業務手続きのブラックボックス化</li> <li>情報化による内部牽制機能が弱体化</li> <li>業務知識，情報処理能力の個人への集中化など</li> </ul>

(2) システム監査とシステム診断の共通アプローチとなる脆弱性側面とその視点の事例

国際・社会的側面	<p>情報通信システムが国際化・高度化する豊かな情報化社会、国際的なビジネス社会が実現など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>時差、距離、国境を超えたビジネス展開の実現</li> <li>社会公共情報システムの実現</li> <li>ネットワーク、インターネットによる国際取引</li> <li>インターネットによる電話、画像、データ等の迅国際間流通</li> <li>社会システムの情報化による社会機能の向上とコストの削減</li> <li>電子政府の実現など</li> </ul>	<p>情報通信システムが国際化・高度化する豊かな情報化社会、国際的なビジネス社会に貢献しているか</p> <p>[事例]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>情報化による社会システム</li> <li>社会公共システムとしての機能は十分に発揮できているか</li> <li>国際標準への準拠等</li> </ul>	<p>情報通信システム故障，不備、不良等による国際・社会システムの停止，機能の麻痺はしていないか</p> <p>[事例]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>情報システムの事故・停止による社会的混乱</li> <li>決済不能リスクの増大（システムリスク、ヘルシュタットリスク等）</li> <li>情報の操作、流布による混乱、犯罪</li> </ul>
法・倫理的側面	<p>情報通信システムを有効活用とこれに伴うコミュニケーション、ビジネス活用、情報資産の取引など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ネットワークによる隔地間取引の実現（契約成立）</li> <li>コンテンツ商品の流通と法的権利の取得（インターネットによる公表、情報配布等）</li> <li>ソフトウェア等の創造、知的活動による知的財産権（著作権、特許権等）の取得</li> <li>グローバル化による国際標準，規制の緩和，法整備の促進など</li> </ul>	<p>情報通信システムの活用による法律、倫理、政策、制度の改善。法律，倫理の教育の実施しているか</p> <p>[事例]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>情報関連法律と情報リテラシー教育の充実</li> <li>知的財産ビジネスへの戦略的マーケティング</li> <li>情報作法と情報倫理の教育・指導の重要性</li> <li>国際標準，ガイドラインへの準拠性など</li> </ul>	<p>情報通信システムの活用による法律、倫理、政策、制度を侵す情報システムになっていないか</p> <p>[事例]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>契約、成果物の所有権、機密保持等の諸問題</li> <li>知的財産保護の国際的ハーモナイゼーション</li> <li>プライバシーの侵害、わいせつ情報の流布、コンピュータ犯罪と倫理問題など</li> </ul>

(3) 主としてシステム監査からのアプローチになる脆弱性側面とその視点の事例

<p>情報技術（IT）的側面</p>	<p>情報技術の本質的な特性により安全性の高い有用な情報システムの実現など （企業等が情報システムの構築により目的を達成）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ プログラムを開発することで自社の情報化が実現</li> <li>・ 記録は電磁化され、大量の情報がコンピュータで処理され、電磁媒体で長期間保存できる</li> <li>・ オンラインシステムの構築による隔地間取引</li> <li>・ デジタル化により劣化せずに情報処理が可能</li> <li>・ コンピュータによる大容量の情報処理が可能になった</li> <li>・ 情報と通信の進展による国際情報基盤の確立など</li> </ul>	<p>先進的な情報技術をもって、常に効率的な情報化を実現しているか [事例]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報システムの機能の十分な発揮</li> <li>・ 業務処理時間の分析と処理効率の向上</li> <li>・ オンラインのレスポンス・タイムの適正化</li> <li>・ 情報の開示、検索・表現・分析等の能力</li> <li>・ 情報戦略に基づく情報システムの構築</li> <li>・ 情報化投資に見合っ効果の技術的評価</li> <li>・ 情報システム化への先端技術の採用など</li> </ul>	<p>情報通信システムの本質的な特性による安全性が低下した情報システムになっていないか [事例]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 機械的な故障、物理的な摩耗、破損等のトラブル</li> <li>・ 高速・可視不能により問題の追求が困難</li> <li>・ コンピュータの処理能力の評価、監視</li> <li>・ 電磁記録による効果的な情報処理</li> <li>・ デジタル化による情報の品質向上と情報統合等</li> </ul>
--------------------	--	--	--